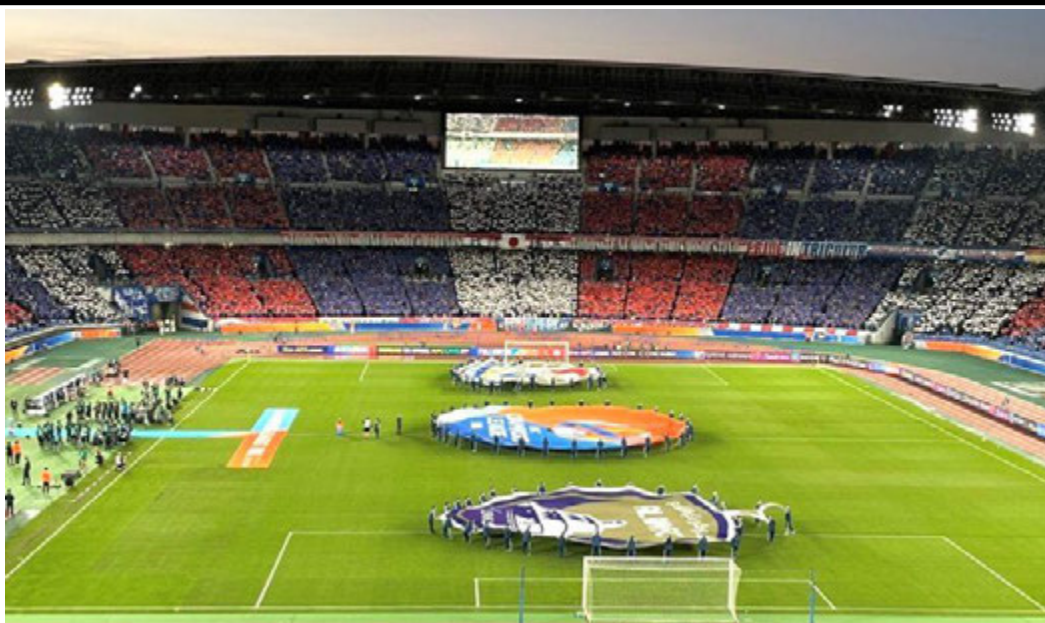




「ボランチわ」は日産スタジアムボランティア情報誌です

横浜F・マリノス、ACL優勝のかかった決勝ホームゲームで勝利！



ACL初優勝を勝ち獲ろうと来場した横浜F・マリノスサポーター

2024年5月11日(土)、AFCチャンピオンズリーグ(ACL)の今シーズンの決勝第1戦としてホームゲームが行われました(観客数 53,704人)。横浜F・マリノスにとって初のACL決勝進出でアジアの頂点を目指して、サポーターが一丸となって応援していました。対戦相手のアル・アイン(UAE)のビジターサポーターが熱い声援を送っていました。ビジターサポーターはほぼ全員が白い民族衣装「カンドウーラ」を身に付け、いかにも中東から来ていることがわかる光景でした。国際試合の独特の雰囲気の中で試合は始まりました。横浜F・マリノスは後半に2点獲得して2-1で逆転勝ちを収めました。

決勝第2戦は日本時間5月26日(日)に対戦相手であるアル・アイン(UAE)のホームスタジアムで行われました。日本から多くの横浜F・マリノスサポーターが敵地を訪れ、熱烈な応援を続けました。結果は横浜F・マリノスが善戦したものの敗れました。決勝第1戦と第2戦の合計得点が3-6となり、横浜F・マリノスは惜しくも準優勝となりましたが、今後のACLでの活躍を期待したいと思います。(久保 勝美)

(※) AFC: Asian Football Confederation (アジアサッカー連盟)

ACL: AFC Champions League (AFCチャンピオンズリーグ)

UAE: United Arab Emirates (アラブ首長国連邦)

ボランティアの笑顔で、スマイルスタジアム

JA全農チビリンピック2023開催

～全国からスポーツ大好きな小学生が日産スタジアムに集まりました～

5月5日(こどもの日)、スポーツが大好きな小学生が日産スタジアムに集まって、JA全農チビリンピック2023が開催されました。4年ぶりに開催されたJA全農チビリンピックの出場選手は親子を含めて約1600人と以前に比べて少なくなりましたが、熱気はそのままに開催されました。日産スタジアムのボランティアの半数は前日に袋詰めやゼッケンの準備作業を行い、当日は7時からゼッケン渡し、成績・記録、参加賞準備・配布、記録証配布などの担当に分かれて活動しました。

開会式では主催(日刊スポーツ新聞社、及び公益財団法人 横浜市スポーツ協会)や特別協賛(全国農業協同組合連合会[JA全農])の代表者による挨拶がありました。その後ゲストと出場選手代表6名による聖火リレーが行われ、シドニーオリンピック 女子マラソン金メダリストの高橋尚子さんと6年生代表が最終走者になり聖火台に点火しました。バックスタンド中央に設けられた聖火台に向かった6年生代表は緊張した面持ちでしたが、しっかりと大役を果たしました。午前に行われた最初の競技は親子マラソン(1年生)でした。1位の親子は1年生とは思えない立派な走りを見せ1kmを3分52秒という好タイムで完走しました。チビリンピックのためにずっと練習してきたという1年生はインタビューで「お父さんと一緒に走れて楽しかった」とはじける笑顔で答えていました。マラソンで転んでしまい泣きながら走る小学生もいました。高橋尚子さんが励ましながら伴走し、スタンドから応援しているご父兄からも暖かい拍手が送られる一幕がありました。昨年から新種目として始まった一輪車競技では、抜きつ抜かれつ走る中で落車する小学生も数多くいました。その勝負に賭ける真剣なまなざしは小さなアスリートでした。

日産スタジアムのボランティアの皆さんに参加した理由を尋ねると「サッカー以外の競技に興味があったから」「子ども関連のイベントで楽しそうだったから」という答えが返ってきました。実際に参加した感想を尋ねると「お子さんたちが元気で、喜んでチビリンピックに参加してくれて、こちらも楽しくなりました」「お子さんが礼儀正しく挨拶してくれて嬉しかった」「頑張ってるね、と声をかけると手を振ってくれて可愛かった」と答えていました。子どもたちが生き生きと競技に参加する様子は私たちボランティアを励まし、次のボランティア参加のモチベーションを高めてくれたように感じました。

「JA全農お楽しみ広場」では多くの参加者やご父兄がJA全農の商品に舌鼓を打ち、爽やかな新緑の季節を思い思いに楽しんでいました。最後になりましたが大会に携わったスタジアムスタッフや運営ボランティアの方々、大変お疲れ様でした。(坂田 圭美)



前日準備の様子



開会式のために集まった小学生



JA全農お楽しみ広場の様子

セルティックFC・ジャパンツアー2023!

～スコットランドの強豪セルティックFCとの国際親善試合開催～

7月19日(水)、セルティックFC・ジャパンツアー2023として対横浜F・マリノス戦が日産スタジアムで行われました(観客数:20,263人<公式発表>)。昨シーズンにスコットランドリーグで優勝したセルティックFCは歴史的に名高いチームで、横浜F・マリノスから移籍した前田大然・岩田智輝両選手を含む日本人選手5人が所属しています。

ボランティアは東西スタンドの4F・5F・7Fのチケットチェックを行いました。通常の横浜F・マリノス戦のチケット券種と異なる点や、電子チケットでなく紙のチケットが使用されたので、チケットチェックに気を遣いました。南北スタンドのサポーターズシートが自由席となっていたので、16時の開門直後に良い席を求めて、疾走するサポーターの姿が見られました。横浜シミズのスタッフが走るサポーターを制止していました。

観客の多くは横浜F・マリノスのユニフォームを着ていましたが、予想以上に多くの方がグリーンのセルティックFCのユニフォームを着ていました。海外から来られたセルティックFCのファンも多く見られ、帰国子女のボランティアが流ちょうな英語で困っている海外の観客に対応していました。その他のボランティアも外国人に場内案内を英語で行っていて、徐々に多言語ボランティアが広がっていることを感じました。

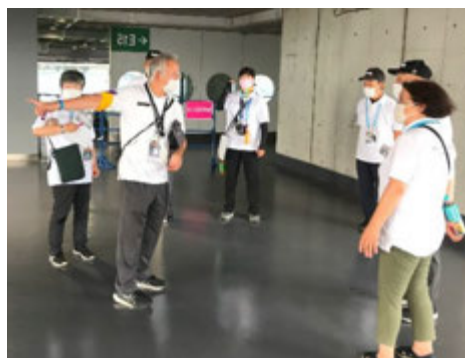
今年の7月は記録的な猛暑で、ボランティアの活動場所もかなり高温でした。活動前のミーティングで熱中症対策として十分な水分補給を呼びかけました。また活動中にリーダーからメンバーに熱中症対策を呼びかけて、結果的にボランティアが体調を崩すことなく活動を終わらせることができました。

試合は前田大然選手のハットトリックでセルティックFCが得点を重ねましたが、横浜F・マリノスが攻撃型のサッカーを発揮して大量点をあげて、横浜F・マリノスが6対4でセルティックFCに勝利しました。

(富田 有久・久保 勝美)



スタンドの様子



配置場所でミーティング



場内案内をするボランティア



活動中の新人ボランティア

J1リーグ試合前のフィロソフィーにメッセージとして参加しました！

2023年7月15日(土)、横浜F・マリノス vs 川崎フロンターレの川崎ダービーの試合前に「フィロソフィー」が行われ、そのメッセージを依頼されました。

「フィロソフィー」は日産スタジアムで行われるJ1リーグの運営を支える職員、横浜シミズスタッフ、サポートスタッフ、関連会社社員がキックオフの約4時間30分前に全体ミーティングとして開催されています。これまでにスタジアムボランティアでは安田十四雄さんと上田敏彦さんの2名が発表を行っています。

元々、フィロソフィーは、「哲学、根本原理、基本的な考え方」といった意味です。横浜F・マリノスに関わる人たちが共有し、定着すべき考え方を「クラブ・フィロソフィー」として定めています(詳細は横浜F・マリノスのホームページをご覧ください)。特にホームゲームフィロソフィーとして、「感動というGOALをすべての人に届けるための3つの行動規準」があります。試合前に「フィロソフィー」を行って、スタッフ全員が「セーフティー、フェアプレー、チームワーク」を共有する大切な時間です。私はフィロソフィーで以下のようなメッセージを伝えました。「日産スタジアム運営ボランティアは、1999年に横浜国際総合競技場ボランティアとして発足しました。今年で24年目となりました。現在、ボランティア登録者数は約220人で最高齢は92歳で、若い人は高校生が活動に参加しています。1999年に登録して現在まで活動を行っているボランティアは30名以上います。日産スタジアムの隅から隅まで知っており、生き字引のような存在です。昨年まではお客様の入場時の体温測定、検温を行っていました。今年は東西ゲートでお客様にちらしを配っています。またコンコース

からスタンドに入るゲートでチケットチェックを行っています。加えてキッズピッチランドの遊具の担当をしています。活動前のボランティアミーティングではあいさつの練習を行います。『笑顔で元気にお客様をお迎えする』ことを確認しています。私たちがお客様にあいさつして、お客様からごあいさつを返された時に、うれしさを感じます。最近、ボランティア活動をしていると海外の多くのお客様が来場されています。以前から日産スタジアム運営ボランティアには外国語のできる人がいますが、海外のお客様が増えている状況なので、多言語ボランティアを増やしています。お客様が試合を見終わって笑顔でお帰りになるように、今日も私たちはホスピタリティでお客様をお迎えします。今日も気温が高いので熱中症対策と水分を取ってがんばりましょう。宜しくお願いします。」

ボランティアの集合時間の前にフィロソフィーが行われますが、全体集合時間より30分早く来場して、フィロソフィーに参加していただけると、横浜F・マリノス主催のフィロソフィーの大切さを知ることができます。(久保 勝美)



フィロソフィーでメッセージを伝えました

2023年度親子が『田植え体験』を楽しみました！

～グリーン&クリーン部会が恒例の行事を開きました～



全員で記念撮影

2023年5月20日(土)、朝から時折霧雨が降る中で「親子で楽しく米作り、植えて覚えよう花の名前」が今年も行われました。会場となる新横浜公園にある田んぼには一般公募で申し込みされた10家族(大人14人、子供15人、合計29人)が集まりました。これは運営ボランティアのグリーン&クリーン部会が主催しているもので、ボランティアはこの日のために田起こし、代掻き作業などを行ってきました。集まった子ども達の中には「毎年参加しています。田植えを楽しみにしているので今日も参加しました。この後に習い事があるので田植えの途中で帰らないとならなくて残念です」と言う子どももいました。初めに苗の植え方の説明をボランティアから聞いて、その後、田植えに挑戦しました。去年も参加した子供は慣れた手つきでお父さんから苗を受け取り、田植えをしていきました。中には泥に慣れなくて田んぼの中に入れない子どももいましたが、運営ボランティアに促されて他の家族に稲の苗を運ぶ役を楽しそうにしていました。田植えをしているうちにお尻まで泥だらけになる子、いつの間にか長靴を脱いで裸足になっている子、「海じゃないのに貝がいるの?」と不思議そうにタニシを取る子、みんな思い思いに田植えを楽しんでいました。田植えの後は板に好きなメッセージを書いて自分が苗を植えた場所に立てました。幼稚園の子供は「おこめがおいしくできますように」とお父さんに字を覚えてもらいながら一生懸命書いていました。中には田んぼでつけたザリガニの絵を描いている子どももいました。普段、土に触れる機会が少ない子どもたちですが、みんな泥だらけになって楽しんでいました。その後、花壇に花の苗を植えて全員で集合写真を撮りました。帰りに参加者の皆さんは去年作ったもち米とクリアファイルとお花の種をお土産に受け取って解散になりました。参加者の皆さんは7月のかかし作りを楽しみにされていました。「田植えって大変なんですね。腰が痛くなりました」と笑顔で話しているお母さんもいました。このイベントのためにずっと以前から丁寧に田んぼの状態を整えてきたグリーン&クリーン部会の皆様、お疲れ様でした。(坂田 圭美)



田植えのやり方の説明



田植えの様子



花の苗植え

2023年度『案山子作り体験』に5組の親子が参加！



出来上がった案山子を持って日産スタジアムの中で記念撮影

2023年8月20日(日)午前10時から一般公募による5家族とグリーン&クリーン部会メンバー8名によって、『案山子作り体験』イベントを行いました。今年は記録的な猛暑で、当日はととても蒸し暑さを感じたため、熱中症対策を行いながら案山子作りを進めました。案山子作りに必要な材料代などは1家族当たり500円の負担をお願いしました。グリーン&クリーン部会メンバーが事前に入念な準備を行ったこともあり、家族が力を合わせて作業開始から約1時間で完成しました。最後に出来上がった案山子を持って、日産スタジアムの中で記念撮影を行いました。

完成した案山子は新横浜公園内の田んぼの横に掲げられて、10月の稲刈りまで稲穂の実りを見届けます。毎年、新横浜公園をランニングや散歩している人の中には案山子を見るのを楽しみにしている方がとても多いようです。最後になりましたが、日産スタジアム職員とグリーン&クリーン部会の方々、大変暑い中で行事を開催して頂きましてお疲れ様でした。(富田 有久)



家族で力を合わせて作っています



かわいい顔が描けるかな



上手に顔を描きましょう

2023年度10組の家族が『稲刈り体験』を楽しみました！



皆さん、お疲れ様でした

まだ暑さが残る2023年10月1日(日)、10家族34名が参加して稲刈り体験を楽しみました。ボランティアに鎌の扱いと稲束のまとめ方を習って、稲刈り作業開始です。始めは子供さんも親御さんもおっかなびっくりでしたが徐々に調子を上げて一時間半ほどで予定した作業を終えることができました。

刈り取った稲は公園のフェンスを利用した稲架(はさ)に掛けて2週間ほど天日干しをしてから脱穀をします。参加された皆様にはこの田んぼで収穫したモチ米をお土産にお持ち帰りいただきました。(富田 有久)



ボランティアから注意事項を聞きます



一列に並んで稲刈りを行います

2023年からキッズピッチランド担当が追加

～横浜F・マリノス戦の活動で新たな役割が加わりました～

2022年まで横浜F・マリノス戦の活動では、チケットチェックやちらし配布を主に行っていました。2023年から従来の活動に加えて「キッズピッチランド」の誘導・案内の担当が加わりました。

「キッズピッチランド」は東エリアのコンコースからE12を通過してスタンドに入り、さらに階段を下りたピッチ上にあります。小さなお子様が開門時間からハーフタイム終了までの試合中でも遊べるように、「キッズピッチランドふあふあ」と「ゴーカート」があります。料金は無料で気軽にお子様を連れて来ることができます。

ボランティアは、「キッズピッチランドふあふあ」を利用するお子様たちを遊具の中に案内して、決められた時間が経ったら遊具から出るように声を掛けます。そしてスタンドに戻るよう案内します。「ゴーカート」の遊具には運営会社のスタッフがいますので、ボランティアはお子様たちをスタンドの待機場所からゴーカートの遊具エリアまで案内します。また遊び終わったお子様たちをスタンドに戻るよう伝えます。

相手が幼児から小学生が対象なので、わかりやすく話をする必要があります。また遊具の利用まで列を作って待ってもらっていますが、待つことに飽きることがあり、列から離れることがあります。その時にもわかりやすく伝えることに心掛けています。

2023年に「キッズピッチランド」のボランティアを担当してみて、いくつか学ぶ点がありました。

- ① 「キッズピッチランドふあふあ」では小さなお子様から小学生が同時に遊具の中で遊ぶので、お子様同士がぶつかってけがをしないように注意する必要があります。
- ② 「キッズピッチランド」の設置場所が東スタンド下のピッチ上にあり、日陰がありません。特に夏場の日中には気温が上がリ、遊具を待っているお子様たちだけでなくボランティアも熱中症対策に気を付ける必要があります。
- ③ キックオフの1時間前からハーフタイム終了までお子様を連れた多くのお客様が「キッズピッチランド」を訪れます。その場合、遊具で遊ぶまで長時間お待ちになる場合があります。お客様をわかりやすく待機列に誘導や案内することが求められます。

「キッズピッチランド」の活動内容はチケットチェックやちらし配布とは異なる部分で、気を付ける点があります。しかし、幼児から小学生を対象に活動を行うことができ、遊んでいるお子様たちの笑顔がとても素敵です。

2024年の横浜F・マリノス戦の活動でも「キッズピッチランド」の担当を行っています。担当されたボランティアの方々は、経験をリーダーやメンバーに伝えて、より良い活動となるようにご協力を宜しくお願いします。

(久保 勝美)



「ふあふあ」周辺の活動の様子



「キッズピッチランド」入口の案内

能登半島地震災害義援金ご報告

2024年1月1日に発生しました能登半島地震で、スタジアムボランティアの皆様を対象に2月10日より開始させていただきました「能登半島地震災害義援金」は、4月3日現在で下記の金額となりました。

①	2月10日リーダー会議	13,000円
②	2月21日 ACL バンコク・ユナイテッド戦	26,335円
③	3月1日 J1 アビスパ福岡戦	14,214円
④	3月14日 ACL 山東泰山戦	19,061円
⑤	4月3日 J1 川崎フロンターレ戦	14,354円
⑥	従来よりの義援金残金	35,834円
合計金額		122,798円

スタジアムボランティアの皆様の心からの輪島市の被災者へのご支援によりこの金額に達しましたことを、ここに深く感謝申し上げます。

早速に上記金額をゆうちょ銀行を経て、「能登半島地震輪島市災害義援金口座」に送金させていただきました。以上、御礼とご報告させていただきます。

日産スタジアムボランティア事務局

※ INFORMATION ※

令和6年8月～12月の活動予定

月日	イベント名	集合時間	終了予定	要員
8/7(水)	J1リーグ 横浜F・マリノス vs 北海道コンサドーレ札幌 (第25節)	16:00	21:30	126人
8/10(土)	サイクルパークフェスティバルマーシャル講習会	14:00	16:00	40人
8/11(日)	J1リーグ 横浜F・マリノス vs ヴィッセル神戸 (第26節)	16:00	21:30	126人
9/23(月・祝)	サイクルパーク(8月10日講習会参加者のみ申込可能)	7:00	17:00	40人
9/27(金) or 9/28(土)	J1リーグ 横浜F・マリノス vs FC東京 (第32節)	未定	未定	未定
10/18(金) or 10/19(土)	J1リーグ 横浜F・マリノス vs アルビレックス新潟 (第34節)	未定	未定	未定
11/17(金) or 11/3(日)	J1リーグ 横浜F・マリノス vs 浦和レッズ (第35節)	未定	未定	未定
10/23(水) or 10/30(水) or 11/6(水)	J1リーグ 横浜F・マリノス vs 浦和レッズ (第35節) (ルヴァンカップ決勝進出時)	未定	未定	未定
11/3(日・祝)	J1リーグ 横浜F・マリノス vs 浦和レッズ (第35節)	未定	未定	未定
12/8(日)	J1リーグ 横浜F・マリノス vs 名古屋グランパス (第38節)	未定	未定	未定

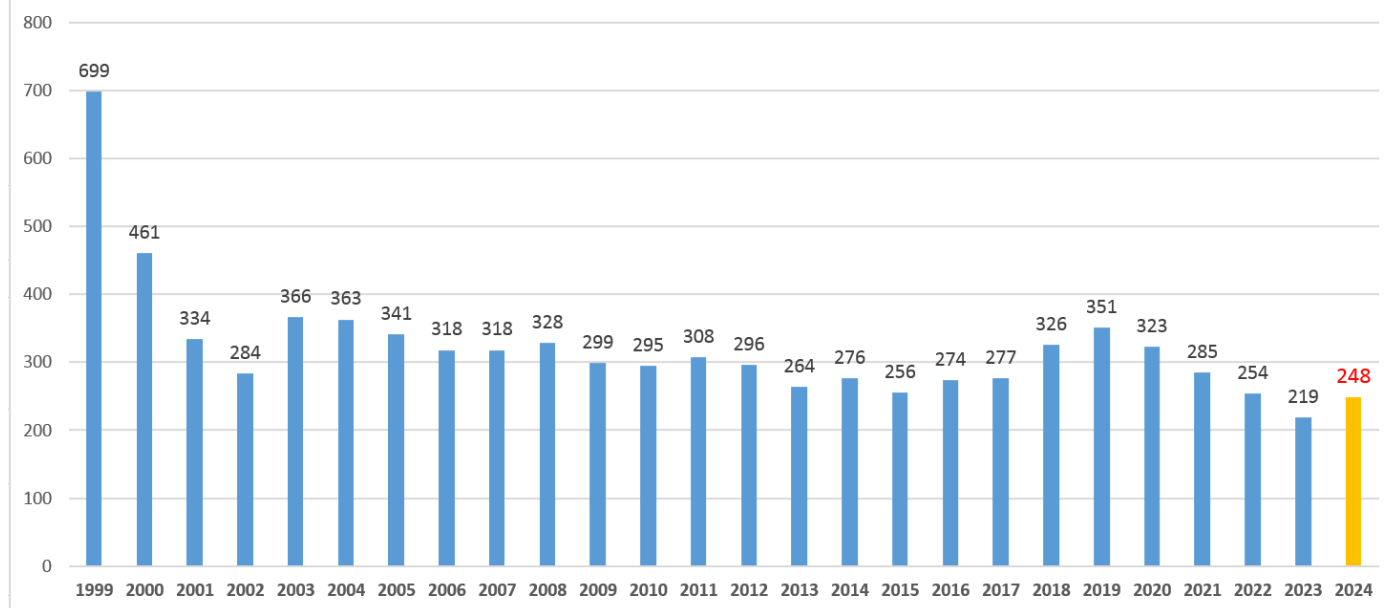
※イベントの時間や人数の変更、活動の追加や中止の可能性があります。活動参加の連絡が届いた場合は確認してください。

日産スタジアム運営ボランティア登録人数の推移

日産スタジアム運営ボランティア登録者の人数はコロナウイルス感染拡大前の2019年が351名でしたが、コロナウイルス感染拡大が続いて、2023年には219名と大幅に減少しました。コロナウイルス感染拡大によりイベントの中止や延期が続き、またコロナウイルス感染の様子を見ながらボランティア登録を見送っている方々もいらっしゃるかと推測しています。コロナ感染が収束する傾向が見られ、2023年はイベントの回復に伴いボランティアに登録される方々がやや戻って、登録者数は248名となっています。また横浜市スポーツボランティアセンターを通して日産スタジアムボランティアを募集したことにより、新規登録者が増えたことの一因となっていると考えられます。

(データ提供: 日産スタジアム運営ボランティア事務局)

日産スタジアム運営ボランティア登録の推移表



日産スタジアム運営ボランティア登録人数の推移（1999年～2024年）

写真提供：日産スタジアムスタッフ、久保勝美

✂ ✂ ✂ ✂ ✂ ✂ ✂ 編集後記 ✂ ✂ ✂ ✂ ✂ ✂

✂ 2023年から情報部に新たに坂田圭美さんと富田有久さんが加わりました。この2名と安田十四雄さんが編集した記事を今回のボランティアに掲載しました。2名の編集者が加わりリフレッシュされた記事をお楽しみ下さい。

✂ 2021年7月23日(金・スポーツの日)には東京オリンピック開会式が華やかに開催されました。あれから3年経ちましたが、まだ多くの方が鮮明に覚えていらっしゃると思います。そして、日産スタジアムボランティアの中には東京オリンピックボランティアに参加された方も多くいらっしゃることでしょう。コロナウイルス感染拡大により、残念ながら無観客開催となりました。それでも思い出深い大会だったと考えられます。

さて、2024年7月26日(金)〈日本では7月27日〉、パリオリンピック開会式が行われます。観客の声援が再び聞こえる会場の様子をテレビで観戦したいと思います。日本からパリオリンピック・パラリンピックに参加される選手全員がこれまでの練習の成果を発揮して、好成績を収められることを心から祈っております。(久保 勝美)

発行・編集：日産スタジアム ボランティア事務局 情報部

〒222-0036 横浜市港北区小机町3300 日産スタジアム Tel: 045-477-5030 FAX: 045-477-5002